

寄生虫学

【単位数: 1.5単位, 授業25コマ(定期試験含まず)】

1 科目責任者

高村祥子 教授(感染・免疫学)

科目担当者

高木秀和 准教授(特任)(感染・免疫学)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-c)

- ① コンピテンスの“医学知識と科学的探究心”, “地域社会へ貢献”の理解ができるようになるため, 寄生虫症の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素や, 寄生虫疾患による国際社会の健康問題を把握, 説明できるようになる。
- ② 寄生虫の感染経路や感染部位, それに伴う病因, 病態が説明でき, 診断, 治療, 予防の概念を学ぶことにより, 寄生虫症に関する基礎医学的な要素を理解できるようになる。また, 寄生虫疾患の流行地や発展途上国での寄生虫症の実態を学ぶことにより, 国際社会の健康問題の背景や, 国際医療の現状と問題を認識できるようになる。

(2) 学修目標

- ① 臨検上重要な寄生虫, 衛生動物の基本的性状, 病原性とそれによって生じる病態を理解する。
- ② 原虫類・蠕虫類の分類及び形態学的特徴を説明できる。
- ③ 寄生虫の生活史, 感染経路と感染疫学的意義を説明できる。
- ④ 寄生虫症の診断, 治療と予防の概要を説明できる。
- ⑤ 各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。
- ⑥ 寄生虫感染宿主の生体防御(免疫応答)の特徴を説明できる。
- ⑦ 発展途上国や流行地における寄生虫症の実態について背景を理解し, 医療の現状と問題を認識する。
- ⑧ 寄生虫症を免疫学, 組織学, 解剖学, 生理学などと関連付けて考察できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	85%	記述式問題, 多肢選択問題を出題する。
小テスト	○	9%	演習終了時毎に小テストを受験する。
レポート	○	6%	演習終了後に演習レポートを提出する。提出期限については, 演習の進捗状況に応じて決める。
態度	○	—	講義時の態度不良の場合は「問題行動学生報告書」(イエロー・レッドカード)を提出する。演習時の態度不良の場合は「問題行動学生報告書」の提出のほか, 最大10%減点をする。

定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。演習時に欠席の場合は補講を行う。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験で60点未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する。60%以上を合格とする。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

必要な場合には講義や演習前に解説を行う。演習レポートは採点し返却する。定期試験の成績についての総括をAIDLE-Kに掲示する。これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となつた者は再試験に備える。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
図説人体寄生虫病学 改訂10版	吉田幸雄 原著	南山堂	日本寄生虫学会による編集。情報量が豊富であり、免疫学・分子生物学、最新の治療に関する知見も充実している。
寄生虫学テキスト 第4版	上村 清、 木村英作、 金子 明、 丸山治彦、 所 正治、 大槻 均	文光堂	寄生虫や衛生動物に関し、簡便にまとめられている。2019年に改訂されている。
レジュメ配付			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
医動物学 改訂8版	吉田幸雄、 有薗直樹、 山田 稔	南山堂	「図説人体寄生虫病学」の姉妹編である。寄生虫症、衛生動物媒介疾患について内容の全面改訂が行われ、医動物学の知識がわかりやすくまとめられている。
Human Parasitology, Fifth Edition	Burton J. Bogitsh, Clint E. Carter, Thomas N. Oeltmann	Academic Press	英語版の教科書。内容のバランスも非常によく、分かりやすい。イラストや写真も豊富である。

6 準備学習（予習・復習）

予習： 教科書あるいは参考図書の該当する箇所を読み、どのような事項が取り上げられているのか確認しておく（1コマあたり約0.5時間）。演習前は対象となる寄生虫について演習のレポートを作成するのに必要な事項を確認しておく、不明な点は調べておく（1コマあたり約0.5時間）。

復習： 感染経路、寄生場所、病態（症状）を組織学・生理学・生化学・免疫学などと関連させて講義内容を再確認する（1コマあたり約0.5時間）。演習後に受験した小テストに関する確認や演習に不明だったことを自学自習しておく（1コマあたり0.5時間程度）。

7 授業計画

(1) 講義の方法

講義室における講義では基本的に知識伝達型の講義スタイルにて授業を進めるが、講義中に個人あるいは数人での質疑応答などを行う場合がある。演習においては事前に全体的な説明、課題についての説明を行う。その後、各自で与えられた演習の課題を行う。演習終了時には各自がレポートを作成・提出し、小テストを受験する。

(2) 講義の内容

講義では教科書の内容について様々な資料、症例を掲示しながら解説していく。また、最近の研究成果から明らかになつた寄生虫の分子生物学的な研究報告や話題となつてゐるトピックなどを紹介する。演習では顕微鏡を用い、様々な寄生虫標本、病理標本をスケッチしながら自主学習し、寄生虫の生活史及びその病態・症状、寄生虫症診断に関する概念や知識を考察しながら自主的に学ぶ。